

広報

やまと

9/15

No.936

<http://www.city.yamato.lg.jp>

特集 演劇やまと塾
ゼロからの挑戦



ゼロからの挑戦

8月19日 生涯学習センターで一つの記念すべき舞台が、多くの観客のかつさいを浴び、幕を閉じました。

「大和爛漫 和子の四季・桜の樹の下で」

このたつた1回限りの公演のために、1年間厳しい稽古を重ねてきた一座の名は、市民劇団「演劇やまと塾」。『演劇でこの町を盛り上げたい人募集!』の呼びかけに集まつた10歳~69歳までの29人でした。

世代も立場も異なる熟生の、舞台上に懸けた夢、演劇に対する情熱、そして「わが町、大和」への思い。

今号では、劇団「座」の講師陣と共に、文子じおり体を張つて町を盛り上げた、熟生たちの1年の歩みを追いました。

大和市民劇団養成プロジェクト「演劇やまと塾」

文化庁の「文化芸術による創造のまち支援事業」として財団法人大和市スポーツ・よか・みどり財団の主催で実施。演劇を通じて市民の心をつなぎ、地域ぐるみで文化をぐくむ心を育てようと、昨年7月、塾生を公募。「演劇やまと塾」を立ち上げ、1年後の舞台に向け本格的な稽古を積みました。





よこうちけんすけ
横内謙介

「演劇やまと塾」アドバイザー

劇作家・演出家・劇団「扉座」主宰。1961年生まれ。市立つきみ野中学校卒。県立厚木高校在学中に演劇と出会い、処女作『山椒魚だぞ!』で演劇コンクール優秀賞を受賞。1982年、扉座の前身「善人會議」を旗揚げ。以後、オリジナル作品を発表し続ける。1992年に『愚者には見えないラ・マンチャの王様の裸』で第36回岸田国士戯曲賞受賞、1999年にはスーパー歌舞伎『新・三国志』で第28回大谷賞を史上最年少で受賞する。著作は『夢みるちから』は眠らない(春秋社)など多数。

寄 稿 いつか劇場が建つ日のために

これを書いている時点では、まだ本番前なのです。が「大和爛漫」の通し稽古を見て、スタッフの端くれであることを忘れ感動してしまいました。まだ本番まで十日以上ある時期で、衣装や大道具なども仮の物だし、出演者たちのせりふもうろ覚えで途中何度も引っかかります。ついでにいえば、稽古の場所は消防署の一室で、稽古中に「緊急指令!」みたいな放送が入ってくるような環境です。

普通だったら、それだけで集中できなくて興が冷めるものです。けれど、この通し稽古は素晴らしいものでした。

一言で言えば、下手くそです。悲しいはずの場面なのに、噴き出してしまいそうなあかしさが漂っています。そうかと思うと、笑わせるべきところが「すべて」妙な間が空いたりします。でも、そういうことの一切がすてきに見えててしまうのです。ああ、人間だな。人間て面白いなあ、いとおしいなあ、と。

それはたぶん自主参加で集まった出演者たちが持つ、それぞれの生活のにおいとか、人生の重みみたいなものが醸し出す魅力のたまものなのだと思います。そしてそれはプロの俳優たちの経験や技術をもってしても、なかなか表現することの難しいこともあります。ちゃんと生きてきた人たちがやるからこその味わいです(ちゃんとの中には、正しいことのみならず、多少の悪さや人間的なしくじりなども含みます)。

けれど実をいえば、人間ていいなあ、という境地こそは、あらゆる演劇が目指している究極の目標なのです。ところが千両役者を集めて、予算をかけても、その境地に舞台が届くことはとてもまれです。この舞台は、そういう意味で我々演劇の専門家にとっても、演劇とは何かという大事なテーマを改めて考えさせてくれる舞台になったと思います。

数年前、わたしの劇団の公演を大和でやろうとしたことがあります。でも必要な仕込みが可能な劇場が大和になくて断念しました。ほかの地方をずっと巡演してきた作品だったので、驚いたものです。今どきその程度の設備の劇場がない町があるなんて。その一方で、劇場ばかりがりっぱで、すてきな演劇が一つもない町もたくさん見てきました。

大和の芝居はまだまだこれからです。けれど今回の試みが将来この町に劇場が生まれるときの、何かのヒントになってくれることを願ってやみません。



演劇やまと塾

誕生！



平成17年

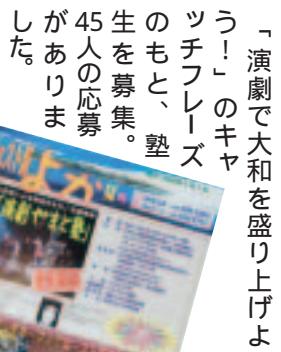
8月6日

初顔合わせ
稽古開始

平成17年

7月1日

塾生募集



「演劇で大和を盛り上げよう！」のキャッチフレーズのもと、塾生を募集。45人の応募がありました。

この日、初めてメンバーが集合。1年間苦楽を共にする仲間です。期待と不安が入り交じる中、長い道のりがスタートしました。

年齢層が広く、演劇の経験がない人が多いことに驚きましたが、疑問点などを共有することができました。また、仕事を持っている男性がいるなど、これまでに経験した演劇とは違う雰囲気を感じましたね。

小倉敬子さん（39歳）

いよいよ稽古開始。ストレッチ体操や体を使った遊びなどを通して心と体を解放し、徐々に羞恥心などを取り除いていきます。

最初は緊張と恥ずかしさで思うように動けなかつたけれど、少しずつみんなのペースに合わせられるようになつたかな。

齋藤信次郎さん（11歳）

わたしになつた理由

会社と家との往復で、限られた人との接していませんでした。「何があるのでは」と新しいもの、新しい人の出会いを求めて参加しました。

浅田佳雄さん（34歳）

これまでにもミュージカルなどに出演したことがあり、そのときは同年代の子と一緒に演していました。今回、やまと塾でいろんな年代の人と劇場を経験できると思ったので応募しました。

上原慶子さん（56歳）

もともと演劇が好きで、1週間程度のワークショップには参加したことがあります。今回は市内で実施すると聞いて応募しました。

小林誠吳さん（70歳）

これまでにもミュージカルなどに出演したことがあり、そのときは同年代の子と一緒に演していました。今回、やまと塾でいろんな年代の人と一緒に劇場を経験できると思ったので応募しました。

坂井くるみさん（15歳）

お母さんと一緒に演劇を見に行くのが好きで、やまと塾の募集もお母さんが教えてくれました。自分も大勢の人の前で演劇をやつてみたいと思いました。

山北淳也さん（12歳）

テレビでやまと塾の取材番組を見たことがきっかけです。大和市初の市民劇団にぜひ参加したいと思い応募しました。でも、人前に出るのは苦手なので、裏方として協力できれば…と。

山口志保さん（20歳）



平成18年
6月1日

脚本完成

平成18年
2月15日

出演者決定

年明けから1か月間の練習
休止を経て、塾生の出演意向
を最終確認。ここで出演者29
人が確定しました。



まず「大和爛漫」という
タイトルに引かれましたね
「桜」を共通のテーマにした
ストーリーは、年代を超えて
共感できると思いました。
星野敏江さん（59歳）

塾生に課した作文「大和の
好きなところ、嫌いなところ」、「初めての
」をヒントに、錦織伊代さんによる
オリジナル脚本が完成。自分たちが演じる舞台のストーリーが明らかになりました。

この日から、台本読みや歌、ダンスの練習、パート稽古に全体稽古と、連日連夜「演劇漬け」の日々が続くことになります。

平成18年
6月24日

決起集会



平成18年
6月7日

配役決定



アドバイザーの横内さんも
参加。本番に向け、決意も新たにみんなで気勢を揚げました。
だからともなく団結を
深めようと声が上がり、稽古後に集まってジュースとお菓子で盛り上りました。この集まりでみんなの気持ちが本番に向かって一つになつた気がします。

塚田由美さん（35歳）

演劇の経験がないので「あまり難しい役にならなければいいな」と思っていました。配役の発表後に台本をよく読んでみると、役と自分が合っている気がしてきて、演出のかたの観察力に感心しました。

山口優子さん（55歳）

いよいよ配役が決定。それに与えられた役を自分の物にしようと、早速、役作りに入ります。

今回の舞台の脚本を担当したのは、劇団Pretty Pink Princessを主宰し、自ら脚本・演出を手掛ける錦織伊代さんです。昨年10月、「やまと塾」の演出を担当する田中信也さんから脚本執筆の話を持ちかけられ、「ぜひやってみたい」と即答。その場で引き受けたといいます。

「市民劇団の脚本を書くのは初めての経験。小学生から60歳代まで、年齢も職業も違うメンバーで舞台を作り上げることに、とても新鮮を感じました」と振り返ります。

錦織さんは、脚本を書くに当たって、塾生たちの持つ「本物の雰囲気」を生かしたいと考えました。

「わたし自身が小学生や年配の人の気持ちを想像して書いても、やはり本物には勝てませんから（笑）。物語の役柄に近い年齢の塾生たちを観察して、その何げない会話などからヒントを得て、何度もせりふに手を加えたとります。

いつもして完成した物語には、すべての場面を見守るように「桜」が描かれています。「桜がある風景を通して、友人、親子、夫婦といった人とのつながりや、人を思う気持ち、そして身近な人たちへの感謝の気持ちを表現できれば」と物語に込めた思いを話してくれました。



一人一人のよさを生かして

にしこあり
錦織伊代さん（24歳）

あるもの

演劇やまと塾

8月6日は初めての通し稽古。
その一日をリポートしました。

P M 1:00

「おはようございます！」稽古の始めにいつも交わされるこのあいさつと共に、練習会場に続々とメンバーが集合します。会場の片隅では、すでに台本を確認し合っている塾生も。和気あいあいとした雰囲気の中、稽古の始まりを待ちます。

P M 2:00

演出の田中さんの「おはようございます！」という一声で、いよいよ稽古開始。この日は各パートの場面転換の練習から。「自分に関係のないシーンでも、何が起こるのか知ってほしい」と田中さん。みんなの表情が一斉に引き締まります。

P M 3:00

いつ、どのタイミングで自分が出るのか、舞台上の立ち位置はどこか、場面転換の動きを幾度も確認。一つ一つ丁寧に田中さんの指示が入ります。熱心にメモを取る塾生。共演者の動きを見ながら少しづつスムーズに動けるようになっていきます。

P M 4:00

場面転換では、素早く小道具を片付けながら次のシーンに移らなければなりません。「もっと早く！」ストップウォッチを片手に指示する演出助手の鈴木利典さん。35秒で転換できるようになってようやくオーケーが出ました。

P M 5:00

場面転換の稽古の次は、舞台の最後に全員で歌うオリジナルソング「**大和爛漫**」の練習。「花火が打ち上がるよう上り上げて歌いましょう！」歌唱指導の杉江真さんの軽快な伴奏に合わせ、全員で気持ちを込めて歌います。

ここで、今回の舞台のアドバイザー・横内謙介さんが駆けつけました。それに気づいた塾生たちは、これまで以上に伸びやかな歌声で熱唱します。



稽古前にせりふを再確認



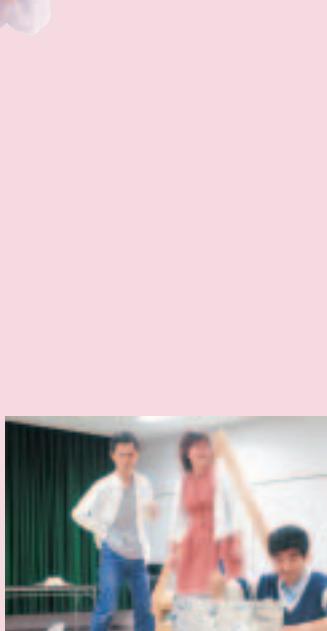
真剣なまなざしで時間を計る鈴木さん



身ぶりを教え熱心に演技する田中さん(手前)



杉江さん(手前)のピアノに合わせみんなで合唱



きらりと光る子供たちの熱演



横内さんから激励の言葉が



今日一日を振り返る反省会

P M 6:00

ダンスの練習を1回挟み、舞台の全編を演じる初めての通し稽古に向け、田中さんから一言。「せりふが出てこなくても、最初から最後までみんなでつなげることを肝に銘じてください。」

P M 7:00

がぜん活気づく塾生たち。演技やダンスの確認をする人、化粧をする人、おのののが準備に入ります。衣装に着替えると、それまでの喧騒がやみ、会場全体が緊張感に包されます。

いよいよ通し稽古スタート！緊張からか、せりふが出てこない塾生も…。

ある場面では子供たちのせつない演技に涙を浮かべ、またある場面では塾生のコミカルな演技に爆笑する横内さんらスタッフの面々。

P M 8:00

ラストは全員で「大和爛漫」を合唱。プロのスタッフを前に、みんな堂々と演じ切りました。

「素晴らしいです。これからは、せりふを自分の物にしながら、今の演技を大切にしてください。皆さん、あまりうまくならないように(笑)。素朴に演じる塾生の姿に、横内さんはプロにはない可能性を感じ取ったようです。

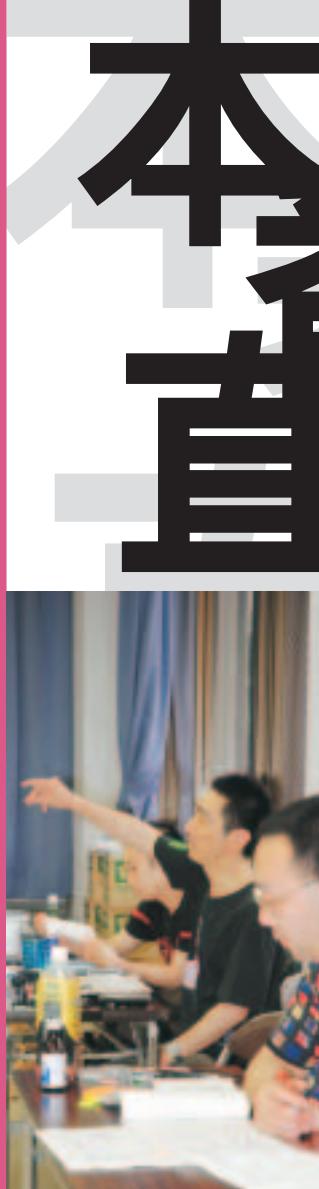
初めての通し稽古を終え、ほつとしたようすの塾生たち。

P M 9:00

最後に田中さんが「うまくやろうと考える前に、必死に感じてください。最後まで努力して頑張りましょう！」とハッパをかけ、この日の練習を締めくくりました。

8時間余りに及ぶ稽古の疲れも見せず、演劇談議に花を咲かせながら家路につく塾生たち。その後ろ姿には、本番に懸ける強い意欲が表していました。

本番直前！塾生リレー日記！



7月18日(火) ボイストレーニング

今日から、ほぼ毎日練習になる。うわー大変！ボイストレーニングも始まつた。

電子ピアノに合わせ、リラックスして楽しく発声練習。わたしは少し緊張ぎみ。主題歌「大和爛漫」と劇中曲「月光仮面」を各パートに分かれて練習する。

本番まであと1か月、頑張りつー。

原京子さん(51歳)



7月30日(日) 粗通し

今日が、「月光仮面」の

ダンスと初の通し稽古(粗通し)をした。ダンス

は一部変更になって、前より格好よくなつたと思つ。

「秋」が台本変更になつたため少し遅れているが、無理やり通しをやつた。みんな初めての通しで緊張しているのか、いつもと違う感じ。

澤藤厚男さん(35歳)



8月6日(日) 通し稽古

朝から落ち着かない。初めての通し稽古だ。

横内謙介さんははじめ、扉座のスタッフのかたが大勢、足が震えるほどの緊張は久しぶり。

一気に通したあと、横内さんの講評「素人のよさがうれしい。チケット販売も上々との

「じぶ頑張りが」。

水野昂子さん(68歳)



本番まであと1か月。この時期になると、発声練習や台本読みなどの基礎的な練習から、本番をながらにせりふをつけ、実際に演技する立ち稽古が中心になつてきます。

1年間にわたる稽古もいよいよ大詰め。本番を間近に控えた塾生たちに、その心境をつづつもらいました。



8月18日(金) 本番前日(リハーサル)

今日は最後の稽古日。う

ぎゃー明日本番!田中さん
に言われたとおり、ビール
を飲まず、首にタオルを巻
いて寝よう。そして明日、
首にできた「あせも」を見
せよう!何があつても明日
は必ず来るのさーみんな
で、仲良く緊張しようね

姫野雅子さん(36歳)

徐々に高まる緊張の中、
さまざま思いを抱き
本番を迎える塾生たち。
塾生やスタッフが、
1年間かけて作り上げた
舞台の幕が上がりります。



今日は「夏」の稽古と通し稽古をした。一人でも欠けるとお互に感じ合つことができない舞台。劇場入り前の最後の稽古で、やり前と全員そろうことができた。

明日からは本番の舞台となる生涯学習センターで稽古。大成功を目指して、あと四日間頑張りたい。

山下智代さん(14歳)



追伸・小道具でビールの空き缶が必要に!飲めないわたしは、一人ふる場でビールかけ。

山本伊織さん(31歳)

8月16日(水) 場当たり稽古

劇場の舞台上に上るのは

今日が初めて。実際の音響、照明での場当たり稽古。舞い散る桜の仕掛けに大感動!多くのスタッフのかたがたに支えられていることを改めて実感する。

